

一部車両において EB 装置のブザー鳴動開始までの時間が延びる事象について（続報）

2014 年 10 月 9 日
東日本旅客鉄道株式会社

当社の TIMS（列車情報管理装置）搭載車両における EB（Emergency Brake）装置のブザーの鳴動開始時間が延びる事象につきましては、10月6日にお知らせ致しましたが、その後の詳細調査により、対象車両がさらに14両あることが判明いたしました。

EB装置とは、走行中に運転士が力行ノッチ、ブレーキ、気笛、EBリセットスイッチのいずれかを60秒間扱わないと、ブザーが鳴り、さらに5秒間これらいずれの操作もしなければ、運転士が疾病等異常状態にあると判断し、自動的に非常ブレーキをかける装置です。

当社の社内規程ではブザー鳴動までの時間を60秒とするよう定めていますが、今回、ある特定の条件下で60秒以上となる事象が判明しており、この場合、運転士が疾病等の場合にブレーキがかかるまでの時間が、規定値より長くなることがあります。

なお、この事象は保安装置である ATC や ATS-P に影響を与えるものではなく、列車衝突の危険はありません。

1．発生する事象（10月6日にお知らせした内容と同じです。）

運転士が同じノッチのまま継続して力行中に、ATC や ATS-P によるブレーキが自動的に動作した場合などに、運転士の操作と認識しタイマーがリセットされ、EB装置のブザーが鳴動するまでの時間が、その時点から60秒になる事象が発生します。

2．対象両数

1,548両とお知らせいたしました。さらに14両あることが判明いたしました。これらは TIMS（列車情報管理装置）搭載車両ではありません。

なお、当社の運転台付き車両の総数は4,353両です。（10月1日現在）

（内訳）

E130 形気動車・・・10両

E193 形事業用気動車・・・2両（お客さまがお乗りになる車両ではありません）

MUE-Train 在来線試験電車・・・2両（お客さまがお乗りになる車両ではありません）

3．原因

EB装置を制御するソフトウェアが、ATC や ATS-P によるブレーキが自動的に動作した場合などに、運転士が操作した場合と同様の認識をする内容となっているため。

4．対策

運転士が同じノッチのまま継続して力行中に、ATC や ATS-P によるブレーキが自動的に動作した場合などでも、EB装置のブザーが鳴動するまでの時間を60秒とするよう、ソフト変更を実施します。